

令和元年度 文書館 7 月企画展(概要)

1 テーマ

わがまち北九州 あの日の時 II

～ 昭和の大水害 「28 災(にっばちさい)」の記憶をたどる ～

2 概要及び目的

・明治、大正、昭和、平成を通して最大の被害をもたらした昭和 28 年 6 月 28 日の「北九州大水害」から本年度で 66 年を迎える。北九州大水害は、梅雨前線による集中豪雨被害であった。一昨年 11 月「北九州大水害を記録する会」より寄贈された 277 枚の写真はすべて「市民の撮った写真」「市民の持っている写真」で大変貴重なものである。時代は平成から令和となり当時の被害の記憶も薄れてくる中、昨年展示できなかった写真など展示物を数十点入れ替え、当時の水害被害や実情を再度市民へ示し防災・減災活動の啓発としたい。

3 日 時:令和元年 7 月 1 日(月)～9 月 6 日(金)

4 場 所:北九州市立文書館

1 階ホール 写真・文書など展示コーナー、DVD 視聴 映像コーナー

2 階会議室 紙芝居と語り部の集い 7 月 17 日 ①10 時半～ ②13 時半～

※ 使用紙芝居 北九州大水害を記録する会、菊ヶ丘語ろう会 共同制作

「子どもたちの大水害」 読み手等 6 名参加

※ 語り部つどい 体験者 3 名が参加

5 企画展の資料について

- ・文書館所蔵資料
- ・北九州大水害を守る会 寄贈資料
- ・北九州市危機管理室 借用資料

6 展示予定物 146 点

(写真パネル 78、資料パネル 7、紙芝居 21、関係文書・冊子など 40)

7 展示物一覧 次頁以降

★展示ケース内★

■展示総数(◇文書 17/☆資料 23/★写真パネル 8) 48 点

A 【門司市 1 ◇文書3/☆資料4】 7 点

資料番号	資料名	解説	備考
1☆	豪雨災害写真集	昭和 28 年 6 月 28 日豪雨による門司市の水害状況が数字と写真で編集されている。	昭和 28 年 8 月 20 日門司市発行 文書館所蔵
2◇	昭和二十八年六月発生 豪雨災害関係事蹟	第一号から第三十六号、水害救助作業のため消防団員出場人員並諸経費調査書までの事蹟がまとめられている。	門司市 提供:危機管理室
3◇	昭和二十八年六月 豪雨災害関係資料(1)	「豪雨災害復興援助懇請書」「豪雨災害中間報告書」「大水害による農林関係被災詳細」「罹災者収容所の皆さんへ」など	庶務課 提供:危機管理室
4☆	北九州大水害写真集	昭和 28 年北九州大水害 30 年の事業の一つとして、発行された。当時の被災写真と被害状況、市民の方々から寄せられた体験手記を中心に編集されている。	昭和 58 年 3 月北九州市役所発行 文書館所蔵
5◇	昭和28年6月水害 全壊者名簿	門司市 全壊者名簿	提供:危機管理室
6☆	昭和28年6月 六月豪雨災害写真	門司市 解説有	提供:危機管理室
7☆	門司大災害の記録 あの日から 50 年	昭和 28 年「門司大水害」の記憶にたどる写真資料集 あの日から 50 年」 ～土砂災害を忘れないために～	平成 16 年 3 月福岡県土木部砂防課 福岡県砂防協会発行 文書館所蔵

B 【門司市 2 ◇文書0/☆資料7】 7 点

資料番号	資料名	解説	備考
1☆	門司大災害の記録 あの日から 50 年	平成 15 年(2003 年)は、大水害から 50 年の節目に当たることから作成された。	平成 16 年 3 月福岡県土木部砂防課発行 文書館所蔵
2☆	6月水害による公立学校被害状	手作りの写真集	門司市教育委員

	況の写真集		会発行 提供:危機管理室
3☆	昭和28年6月28日豪雨による 災害写真集		門司市役所 文書館所蔵
4☆	朝日新聞西部 市内版(朝・夕)	昭和28年6月28日(日)夕刊 「北九州各地に濁流うず巻く」	寄贈:朝日新聞社 A2版 文書館所蔵
5☆	門司市 市制要覧 昭和29年度版	資料の収集は昭和25年~28年12月15 日現在の「災害復旧計画概要」が記されて いる。	昭和29年3月31 日発行 文書館所蔵
6☆	28災記録⑤⑥⑦⑧⑨	昭和二十八年六月発生 門司市大水害記録	門司区役所 総務課 庶務 提供:危機管理室
7☆	昭和28年6月28日 豪雨災害写真	門司市の水害状況が数字と写真で編集さ れている。	門司市発行 昭和28年8月20 日発行 提供:危機管理室

C 【八幡市・戸畑市・若松市・その他 ◇文書4/☆資料2】 **6点**

資料 番号	資料名	解説	備考
1☆	八幡水害誌	八幡市の災害状況、応急対策概況、水害によ る反省、八幡市の水防抜本対策、水害の記録 が記されている。	昭和30年1月1日 発行 文書館所蔵
2◇	昭和28年会議録事績	7月28日より30日迄、三日間の臨時会の事 蹟綴り 議案第86号「昭和28年6月水害被 害者に対する市税の減免に関する件」	第一種文書 19216 八幡市議会事務局 文書館所蔵
3☆	北九州消防五十年のあゆみ	昭和28年北九州市大水害の記録が「28年大 水害の被害状況」の表、「門司市・小倉市・若 松市・八幡市・戸畑市」の被害状況が写真とと もに記述されている。	平成3年3月20日 北九州消防局発行 文書館所蔵
4◇	昭和28年7月臨時会 戸畑市議会会議録	北九州五市正副議長会報告書 ・西日本水害対策特例措置の実施並びに特 例法制定の要請について	第一種文書 19614 戸畑市議会事務局 文書館所蔵
5◇	赤福第1104号 水害対策実施経過概要の報 告について	日本赤十字社 福岡県支部長 杉本勝次氏	昭和28年7月15 日 濱田文書 文書館所蔵

6◇	昭和 28 年 各種委員長報告事績	文教災害対策委員会委員報告書 S28,7,10 委員長 大村氏	第一種文書 19216 八幡市議会事務局 文書館所蔵
----	----------------------	------------------------------------	----------------------------------

D 【寄贈文書 ◇文書0/☆資料8】 **8 点**

資料 番号	資料名	解 説	備 考
1☆	昭和 28 年 6 月 28 日 大水害記録写真アルバム2	門司地区の被災写真 28 枚	寄贈:記録する会 提供:白木慶子氏
2☆	昭和 28 年 6 月 28 日 大水害記録写真アルバム5	到津八幡神社付近の被災写真 46 枚	寄贈:記録する会 提供:黒坂正昭氏
3☆	昭和 28 年 6 月 28 日 大水害記録写真アルバム4	板櫃川流域の被災写真 28 枚	寄贈:記録する会 撮影:風間竹男氏
4☆		撮影場所の手書き地図 (透明ファイル入り)	
5☆	門司市の大水害写真集 3	門司地区の被災写真18 枚	寄贈:記録する会
6☆	門司港地区の被災写真1	(ネガフィルム 88 枚付き)	寄贈:記録する会 撮影:山田禮次郎氏
7☆	北九州大水害関係写真・絵解き DVD	277 枚	寄贈:記録する会
8☆	北九州大水害を記録する会の寄 贈について	寄贈に至った経緯などが記されている	北九州大水害を記録 する会

E 【小倉市 ◇文書 10 /☆資料 2】 **12 点**

資料 番号	資 料 名	解 説	備 考
1☆	大水害写真グラフ	小倉市の水害概況をまとめている。 コピー保存。A4ファイル 全 18 ページ。	昭和 28 年 10 月1日 小倉市 役所調査課 提供:危機管 理室
2◇	昭和二十八年六・七月水害関 係書類綴 10 年保存 第一種保存	大雨による被害状況について、被害について追 加報告、今次災害に対する公聴について、災害 応急住宅の申し込みについてなど	調査課 提供:危機管 理室

3◇	昭和 28 年 八月市議会定例会事蹟綴	議案第 93 号 昭和 28 年 6 月の水害に因る被害者に対する 市税の減免に関する条例を別紙の通り制定する ものとする。 小倉市長 濱田良祐	第一種文書 18313 総務課 文書館所蔵
4◇	昭和二十八年六月豪雨による 水害事蹟綴 保存種別第一種	六月豪雨による災害詳報、災害状況調、港湾災 害復旧工事箇所表(応急を含む)、災害報告書 並びに復旧援助の要請書など	統計係 提供：危機管 理室
5◇	昭和二十八年六月豪雨による 災害復旧調査綴 10 年保存 第一種保存	六月豪雨による災害報告並びに復旧援助の要 請、土木災害緊急復旧工事箇所表、豪雨による 小倉市一圓の水害状況並びに応急措置実施状 況調書など	企画係 提供：危機管 理室
6◇	昭和 29 年 臨時市議会事蹟綴	市長に質問する。「学校建設校舎の増築につい ては現在市内小学校の大部分が二部如行をし ており相当な悪影響がある。一日も早く解決しな くてはならない問題である・・・。	第一種文書 18313 総務課 文書館所蔵
7◇	昭和廿八年豪雨二関スル事蹟 綴 永年保存	六月豪雨による災害詳報、水害による死亡者調 査綴、昭和二十八年七月一日現在 農林被害 状況速報、昭和二十八年七月二十日現在小倉 市災害	助役用 提供：危機管 理室
8☆	企救三谷地区災害工事図面	企救三谷地区 ○河川災害工事○道路災害工事○橋梁災害 工事の図面	濱田文書(当 時の市長濱田 文書館所蔵
9◇	小倉市災害誌編集資料綴 永年保存 第一種	小倉市空襲の事蹟、昭和 28 年 6 月豪雨災害被 害調書、水害特集「六月豪雨が残した3惨跡、 災害現地調査事項」など	調査課 提供：危機管 理室
10◇	豪雨災害報告並びに復旧援助 の懇請書	昭和二十八年七月十五日	濱田文書 文書館所蔵
11◇	昭和 28 年 6 月 28 日豪雨によ る小倉市一圓の水害状況並び に応急措置実施状況調書	市長手持ち資料	濱田文書 文書館所蔵
12◇	昭和 28 年 6 月 28 日 豪雨による水害に対する措置事 項及び将来計画	市長手持ち資料	昭和 28 年 7 月 8 日現在 厚生部社会課 濱田文書 文書館所蔵

F 【直方・鞍手・遠賀 ★写真】

8 点

資料番号	資料名	解説	備考
1★	船で連絡する消防団員(大下にて)	中ノ江地区は殆んど水田に家屋が点々としており、その間を光田地区まで舟で運行したものと思われる。	場所:直方市植木 提供:真如寺 松尾 正典氏
2★	決壊した本川植木堤防	写真中央、遠賀川の左岸堤防	所有:国土交通省九州地方整備局 遠賀川河川事務所
3★	復旧作業中の決壊現場	水害は多くの損害と絶大な労力を要求して破れた家と田面に砂丘を残して去っていった。(水害記録写真帖より)	場所:直方市植木 提供:真如寺 松尾 聖典氏
4★	線路の復旧工事をする人たち	三菱新入鉱業所の第6抗積み込み場から小牧信号所(現 JR 鞍手駅)まで石炭を運んでいた引き込み線が水害によってえぐられた箇所を多くの人々によって道床の復旧工事が行われている様子。	撮影:筒井 甫氏 提供:鞍手町 歴史民俗博物館
5★	土嚢を運ぶ復旧作業専用車	土を掘り出し土嚢を作ってトラックで運び出しているところか。	場所:直方市植木 提供:真如寺 松尾 正典氏
6★	植木築堤災害箇所平面図	2★の「決壊した本川 植木堤防」の写真を平面図に書き表したもの	場所:直方市植木 昭和 28 年 6 月末の豪雨による北九州直轄5河川の水害報告書より
7★	押し切られた線路	右側の線路は、断ち切られている。	場所:鞍手郡小牧付近 提供:真如寺 松尾 正典氏
8★	急増の給水車で水を運ぶ	馬車の荷台に合わせて作ったものと思われ、当時の大変さが伝わってきます。	場所:直方市植木 提供:真如寺 松尾 正典氏

★掲示板 写真パネル★

■展示総数(★写真パネル 70 ☆資料パネル 7 ◇紙芝居 21) 98点

1 2 「昭和の大水害 ～28 災(につばちさい)～」【★写真6/☆資料3】 (9)点

資料 番号	内 容	解 説	大きさ	備 考
1★	門司 被災状況3 白木崎を襲った山津波	家屋は倒壊し押された	A1 横 白黒	出典：九州大学付 属図書館 撮影：朝日新聞社 提供：危機管理室
2★	門司 激流による道路の決壊	昭和 28 年 6 月豪雨災害 家台をさらわれた家(門司市緑町 現 長谷付近にて)	A3 横 白黒 板パネル	提供：危機管理室 消防 NO41
3★	門司 白木崎宮町附近	電車道に流されてきた巨巖の一 部。これらが丈余の激流に乗って 数百メートルもグルグル廻りながら飛ぶ ように落ちてきたのだから凄い。	A3 板パネル 白黒	提供：危機管理室 消防 NO42
4☆	門司被害図	門司全体の被害地図	A2 縦 白黒	提供：記録する会
5☆	小倉被害図	小倉全体の被害地図	A2 縦 白黒	提供：記録する会
6☆	八幡被害図	八幡全体の被害地図	A2 縦 白黒	提供：記録する会
7★	門司 関門鉄道トンネルの門司 側の状況	トンネル入口上の建物は踏切警 手がいた詰所。トンネル左右の線 路敷きからあふれた濁水がトンネ ルに流れ込んでいる	A3 横 白黒	提供：記録する会 9-7 白木氏
8★	小倉 板櫃川の氾濫	上津付近くの板櫃川の氾濫 昭和28年北九州大水害	A3 横 白黒	提供：危機管理室 小倉 4
9★	八幡 大蔵川付近の惨状	大蔵川付近の惨状 昭和28年北九州大水害	A3 横 白黒	提供：危機管理室 八幡 13

3 「八幡 I」【★写真】 9点

資料 番号	内 容	解 説	大きさ	備 考
1★	荒れ狂う大蔵川	写真は通っていた八幡高校グラウンドの土 手から撮った。景勝橋(旧勝山橋)の橋脚 や欄干に流木などがひっかかり、すでに濁 流が両岸へあふれ出している。	A3 横 セピア色	提供：記録する会 6-1 樺氏

2★	八幡製鐵所神田社宅	西側の大蔵川 A	A3 横 セピア色	提供:記録する会 6-2 樺氏
3★	八幡製鐵所神田社宅	西側の大蔵川 B	A3 横 セピア色	提供:記録する会 6-3 樺氏
4★	八幡 大蔵付近の家屋倒壊	昭和28年北九州大水害	A3 横 セピア色	提供:危機管理 室 八幡 11
5★	浸水した神田市場前の 神田商店街	神田商店街は 53 店舗、神田市場は15, 6店舗が営業。撮影時の水の深さは 50 cm くらい。	A3 横 セピア色	提供:記録する会 6-4 樺氏
6★	六条橋付近の電車通り	写真は手前から「電車通り」「板櫃川」「八 幡製鐵(当時の)高見地区の社宅郡」	A3 横 白黒	提供:記録する会 6-5 樺氏
7★	浸水した八幡製鐵五条 社宅(当時)	水がかなり引いてきたので、撮影者は板櫃 川の橋を渡り五条社宅まで足をのばした。 この頃でも水深は 30 cmくらいあった。	A3 横 白黒	提供:記録する会 6-6 樺氏
8★	板櫃川流域の氾濫跡	昭和28年北九州大水害	A3 横 白黒	提供:危機管理 八幡 7
9★	金鷄町付近の被害	昭和28年北九州大水害	A3 横 白黒	提供:危機管理 小倉29

4 「八幡 II」【★写真】 10点

資料 番号	内 容	解 説	大きさ	備 考
1★	崩壊した校舎	県立八幡高等学校	A4 横 貼れパネ	提供:記録する会
2★	校舎内に流入した土砂	平野小学校の教室	A4 横 貼れパネ	提供:記録する会
3★	平野小学校の渡り廊下と 流木で埋まった平野川	写真の1/3 位下のところに写っている石 積みの下が平野川。	A4 横 パネル	提供:記録する会
4★	平野小学校と石で埋まっ た平野川	水害の時は、運動場は石ころだらけ、ゴル フ練習場の横の道も川のようになってい た。	A4 横 パネル	提供:記録する会
5★	校舎に流れ込む激流	高見小学校	A4 横 貼れパネ	提供:記録する会
6★	豪雨による倒壊家屋	八幡市陣の原住吉神社下にて(朝日新 聞社提:撮影)	A 大 横 板パネル	提供:危機管理室 消防 NO49
7★	洪水路の土砂に悩む住 宅街	左奥の白い建物は高見小学校	A4 横 パネル	提供:記録する会

8★	大蔵川沿いの八幡高等学校体育館及びプール	大蔵川に面していたのでその被害が甚大であり、濁流は学校の裏門付近より校地内に奔流し、下手校庭は1m余りの水高となり、その水圧のため煉瓦塀を決壊した。	A4 横 パネル	提供：記録する会
9★	水害と火災に見舞われた八幡市立高槻小学校	大豪雨による水害と火災 (高槻小五十年の歩みより)	A4横 パネル	昭和28年6月29日 朝日新聞朝刊
10★	上本町付近の崖くずれ	上本町付近の崖くずれ	A3 横 パネル	提供：危機管理室 八幡10

5 「門司 I」【★写真】 7点

資料番号	内容	解説	大きさ	備考
1★	被災時と今	災害直後の門司市街と茶色に濁る門司港、(平成15年)現在の門司市街と門司港	A1 カラー	提供：危機管理室 26
2★	風師中学校	風師4丁目 被災当時は校舎は建設中で、1階から2階にかけて工事が進み足場が高く組み上がっていた。	A3横 白黒	提供：記録する会 撮影：教育委員会
3★	小森江東小学校(その2)	校舎床下の大量滞水により校舎中央部より校地欠損流失し、基礎陥落のため校舎は傾斜し、6教室倒壊寸前にある。(6月28日午後10時決壊)	A3 横 白黒	提供：記録する会 4-1 教育委員会
4★	小森江西小学校⑩	校庭は、大量の土砂と岩石に埋まった。	A3 横 白黒	提供：記録する会 4-6 教育委員会
5★	風師山の山津波	風師山の山津波の恐ろしさを語る水魔のツメ跡(白木崎上空より 朝日新聞社：撮影)	A3 縦 板パネル	提供：危機管理室 消防 NO50
6★	土石流に襲われた白木崎(その1)	白木崎地区を襲った土石流は家屋を押し流し路面電車の軌道を越えて、すさまじい破壊力で日本セメント門司工場を直撃した。	A3 横 白黒	提供：記録する会 2-12 山田氏
7★	頑張る散髪屋さん	ズボンの「すそをまくり上げ、水の中でお客さんの髪を整える理容師。	A3 横 白黒	提供：記録する会 1-3

6 「門司Ⅱ」【★写真】 10点

資料番号	内容	解説	大きさ	備考
1★	被災時と今	民家を押し流し国道まで達した土石流と立ち往生する路面電車、(平成15年)現在の広石地区	A1 カラー	提供:危機管理室 26
2★	電車通りの泥水	28日には電車通りは膝上まで水位があった。数日たったこの日もまだ泥水が残っている。	A3 縦 白黒	提供:記録する会 2-9 山田氏
3★	消防自動車立ち往生	消防車のボンネットには第六分団の文字が見える。	A4 横 白黒 貼れパネ	提供:記録する会 9-6 白木氏
4★	白木崎の旧電車通り	手前右側の建物は白木崎の派出所。	A4 横 白黒 貼れパネ	提供:記録する会 9-1 白木氏
5★	谷町の被災状況	谷町1丁目と花月園の間の坂道。通称「谷町の坂道」といわれるところ。	A4横 白黒 貼れパネ	提供:記録する会 9-4 白木氏
6★	門司鉄道病院の車	土砂に埋もれた門司鉄道病院の車両及びレントゲン診療車を多くの人がロープで引き出している。車両を引き出すのに、20人を超える人力を要している。	A 縦 白黒	提供:記録する会 2-2 山田氏
7★	巨岩の除去作業(2)	山津波による土石流でこのような巨大な岩が多くみられた。	A3 縦 白黒	提供:記録する会 2-7 山田氏
8★	仮設の給水設備(1)	河原と化した道路に共同の給水設備を設置したものと思われる。	A3 縦 白黒	提供:記録する会 2-5 山田氏
9★	桜トンネル吉野町側(5)	各トンネルが不通となり、その後20日から1か月にわたり、小倉市を迂回して表門司に連絡する状態であった。	A3 縦 白黒	提供:記録する会 2-14 山田氏
10★	保安隊の活躍(1)	棧橋通り交差点、右側が栄町3丁目。保安隊員の人力による土砂除去作業。	A3 縦 白黒	提供:記録する会 2-10 山田氏

7 「小倉Ⅰ」【★写真】 9点

資料番号	内容	解説	大きさ	備考
1★	大人の作業を見守る子ども達	後付けをしている大人たちと、その様子を見ている子ども達。	A3 横 白黒 パネル	提供:記録する会 5-2 風間氏

2★	川上側の欄干が流失した板櫃橋	板櫃橋の上で復旧作業をする人たち。	A3 横 白黒 パネル	提供:記録する会 5-1 風間氏
3★	土砂ががれきに覆われた電車通り	西鉄電車の通り、八幡側から小倉方面に撮影。	A3 横 白黒 パネル	提供:記録する会 5-4 風間氏
4★	板櫃川の濁流にえぐられた神上橋	神上橋から八幡橋までの左岸、奥の落下している橋は八幡橋。	A3 横 白黒 パネル	提供:記録する会 5-3 風間氏
5★	下到津橋近くの民家で	被災した家の状況	A3 横 白黒 パネル	提供:記録する会 5-6 風間氏
6★	落下流失した八幡橋と到津八幡の灯籠と鳥居	八幡橋を板櫃川右岸より撮影。右側に到津八幡の灯籠や鳥居がみえる。	A3 横 白黒 パネル	提供:記録する会 5-5 風間氏
7★	上到津付近の惨状	上到津付近 昭和28年北九州大水害	A3 横 白黒 パネル	提供:危機管理室 小倉16
8★	延命川附近の被害状況	延命川上流 長命橋附近の被害状況	A3 横 白黒 パネル	提供:危機管理室 小倉19
9★	白銀商店街	商店内もこの通りの泥水で大打撃を蒙った。(朝日新聞社:撮影)	A3 横 白黒 板パネル	提供:危機管理室 消防 N040

8 「小倉Ⅱ」【★写真】 10点

資料番号	内容	解説	大きさ	備考
1★	小倉西高等学校生徒たち	洪水の後、被災学友宅の清掃に奉仕する小倉西高等学校生徒たち(朝日新聞社:撮影)	A3 横 白黒 板パネル	提供:危機管理室 消防 N047
2★	腰まで浸かって家路に急ぐ通勤者	小倉市室町電車通りにて(朝日新聞社:撮影)	A3 横 白黒 板パネル	提供:危機管理室 消防 N043
3★	洪水のため川と化した道路	小倉市川原口にて(朝日新聞社:撮影)	A3 横 白黒 板パネル	提供:危機管理室 消防 N045
4★	板櫃川の濁流に巨大な電柱横倒れ	豪雨の翌日はこのような生々しい被害状況が各地でみられた。	A4 横 白黒 貼れパネ	大水害写真グラフ P17 文書館所蔵
5★	到津付近路上の排土搬出状況	手をとりあって復旧へ。市内各地で排土排出作業が行われた。	A4 横 白黒 貼れパネ	大水害写真グラフ P29 文書館所蔵
6★	水害の恐怖を忘れ無心に寝る子ども達	突然の大雨で住家を失い、学校に避難した人々。	A4 横 白黒 貼れパネ	大水害写真グラフ P24 文書館所蔵
7★	大門電停附近の浸水状況	大雨の中、立ち往生している電車から顔を出して見ている女性	A4横 白黒 パネル	提供:朝日新聞 提供:記録する会

8★	小倉炭鉱の水害	昭和28年北九州大水害	A3 横 白黒 ラミネート	提供:記録する会
9★	妙見川上流足立山の地すべり	足立山の地すべりの状況	A3 縦 白黒 パネル	提供:危機管理室 小倉30
10★	大門、田町付近の浸水状況	浸水状況	A3 横 白黒 パネル	提供:危機管理室 小倉25

9 「直方植木・鞍手・遠賀」【★写真】 9点

資料番号	内容	解説	大きさ	備考
1★	決壊した遠賀川	決壊した遠賀川の様子	A3 横 白黒 パネル	提供:危機管理室 八幡12
2★	冠水した鹿児島本線(遠賀川駅一帯)	冠水した鹿児島本線の遠賀川駅付近を歩く人々。	A3 横 白黒 パネル	提供:記録する会 8-1
3★	水没した遠賀川駅構内 遠賀町	ホーム上まで浸水した駅構内海老津側から遠賀川駅構内を望む。左側は駅舎である。	A3 横 白黒 パネル	提供:記録する会 8-2
4★	流された西祇園橋	遠賀町	A3 横 白黒 パネル	提供:記録する会 8-3
5★	激流に断ち切られ、曲げられた鉄道線路 鞍手郡小牧付近	決壊後約三時間、水は鉄道線路を越して奔流した。線路をモイクチャにした水勢の跡。	A4 横 白黒 貼れパネ	提供:記録する会 A-4 撮影者:真如寺 松尾正典氏
6★	荒らされた民家(其の三) 直方市植木	農家の庭先で水害の後片付けをする人たち。馬や荷車、自転車、水に浮かんだ肥桶など当時の様子が偲べれます。	A4 横 白黒 貼れパネ	提供:記録する会 A-7 撮影者:真如寺 松尾正典氏
7★	水の引かない商店街で腰まで浸かって跡片付けをする人 旧鞍手郡剣町新橋(現 鞍手町中山)	雨は上がったが、水は未だ腰のあたりまで残っている。	A4 横 白黒 ラミネート	提供:記録する会 撮影:筒井 甫氏 所有:鞍手町歴史民俗博物館
8★	水が引いた家の中 直方市植木	水の引いた後にボウゼンとしている家の人。手をつけようにもどこから?と考えると考える。	A4 横 白黒 貼れパネ	提供:記録する会 A-6
9★	植木小学校に避難した子どもたち 直方市植木市	植木小学校に避難した人達も昼間は作業に出て行く。子ども達だけが教室の假屋で皆の帰りを待つ。	A4 横 白黒 貼れパネ	提供:記録する会 A-16 撮影者:真如寺 松尾正典氏

資料 番号	内 容 ・ 解 説
1◇	昭和 28 年 6 月 28 日、北部九州を集中豪雨が襲いました。 ～中略～ 多くの人にとって、それまで経験したことのない「北九州大水害」のあの日、子どもたちはどうしたのでしょうか。
2◇	酒井富世さんは、当時高校 3 年生。現在の小倉南区長行高野に住んでいました。 ～中略～ 足立山はあちこちで崩れ、大きな熊手で引っ掻いたような、不気味な光景でした。
3◇	小倉北区の大田町に住んでいた小学校 4 年生の平岩勝子さんは、小倉南区の北方小学校で行われた七夕揮毫会に参加していました。揮毫会が終わった頃です。だれかれともなく「道が水につかって、電車も止まっている」と騒ぎ始めました。～後略～
4◇	7 歳だった木村里美さんは、里美さんの小学校入学に合わせて建った真新しい家に、母親といました。回りにどンドン水が流れ込んで来て、娘と母は押し入れの上段へ逃げました。～後略～
5◇	門司の戸ノ上山の北側麓に暮らしていた正木さん3姉妹のうち、長女の喜代子さんと玲子さんが豪雨におびえながら家にいたときでした。～中略～ その直後、今度は家の西側の斜面が崩れ落ち、3姉妹は家に孤立してしまいました。
6◇	同じ門司市の小森江では、中学 2 年生の森下満里子さんが神戸製鋼の社宅で妹と留守番をしていました。～中略～ 不安になった満里子さんが父親に知らせようと家を出たら、兄の姿が見えました。その兄が小川にかかっていた石橋を渡ったとたん、橋は濁流に消えました。
7◇	「これは危ない」3 人は着のみ着のまま小川とは反対の方向から家を出ました。 ～中略～ 「吸い込まれる。もうだめだ！」と満里子さんが思った瞬間、兄の手が満里子さんの髪の毛をグッと掴み、引っ張り上げてくれました。
8◇	河井一男さんは、あの頃中学 1 年生、小倉北区との境を流れる八幡東区の「金山川」今の「槻田川」沿いで暮らしていました。～中略～その直後、水は床上まで迫り、家を守っていた父親や一男さん、弟は泳いで脱出、何とか全員助かりました。家は流されずに済みました。しかし、残っていたのは屋根と柱、それに少しの壁だけでした。
9◇	樺信吾さんは、八幡東区の大蔵川の近くの家にはいました。高校 3 年生。大蔵川の上流は河内貯水池です。～中略～ 「これは大変な事態だ」と勇気を奮い起こし、写真機を片手に飛び出し、景勝町から神田町さらに電車通りを越えた荒生田まで撮影して回りました。この時に撮った数コマの写真は大水害の貴重な記録になっています。
10◇	子どもたちの長い長い一日が終わりました。家や職場は水に浸かり、田畑は流され、電気も水道も自動車も電車もバスも止まった街で、苦しい復旧の日々が始まりました。被災した子どもたちは、今は 70 代 80 代です。最初に登場した酒井さんは、母親が水害の後、泥の埋まった田畑で何日も何日も石を拾っていた姿が、今でも夢に現れ、食糧難の時代、子どもたちを食べさせた親の苦労に涙がこぼれます。人の記憶とはそういうものなのです。1 度で結構です。被災体験者の話をお聞きになられませんか。

11

紙芝居「忘れまい！ 足立西麓の28災(にっばちさい)」【☆資料】 11点

資料 番号	内 容 ・ 解 説
1◇	梅雨の長雨には慣れていても、その日はみんな不安でした。尋常ではない雨が一向にやまないのです。お年よりも体験したことのない「どしゃ降り」はひどくなるばかり。とうとう、バケツをひっくり返したような集中豪雨になり、ところによっては1時間で100ミリも降る有り様でした。
2◇	いまから60年ほど前。昭和28年6月28日。私たちがなれ親しんでいる足立山がいつもとは違いました。ふもとから見上げると白っぽいのです。豪雨と、滝のようになって山肌を流れ下る水のしぶきに包まれ、大きな石が転げ落ちるような音もしました。あちこちで「逃げろ！ 山津波が起きるぞ！」と叫び声が上りました。
3◇	神谷二三子(かみや・ふみこ)さんは足立小学校前の親戚の家におりました。「大谷池の堤が切れるかもしれない」という話が伝わって来てきました。すぐ、大事な量を高いところへ何枚も積み上げました。隣の小倉炭鉱職員寮から女性が「こっちも手伝って」と頼みますので、そちらも死に物狂いで量を2階へ運び、終わったところへ、どーっと濁水が流れ込んできました。だれもが「家をでるな！」と怒鳴り、慌ててそばの2階へ避難しました。
4◇	多田タケヨさん一家は明和町バス停そばにあった小倉炭鉱社宅で暮らしていました。昼ごろ、「川が氾濫(はんらん)した！」という声が響き渡り、あっという間に周囲が水に浸かりました。買ったばかりの米の袋は水に沈み、タンスもちゃぶ台も浮き上がりそうになりました。1歳の長女は自分が背負い、3つの長男は近所の人に手を引いてもらい、深い水の中を労働会館目指して逃げました。
5◇	森山尚二さんの兄、西三(とりぞう)さんは、大畠の小倉炭鉱1坑内で掘進(くつしん)に従事していました。「水が来るぞ～！ 外へ上れ～・・・」という声を耳にして、反射的にすぐそばを走っていた炭車にしがみつき、坑口を目指しました。脱出に成功した直後、坑道に濁流が流れ込み、1坑は水没してしまいました。足立山を見上げると、緑の山は白く変わり果て、本事務所や購買部、社宅が土砂に直撃されていました。
6◇	鉱員の松岡都春(まつおか・くにはる)さんは非番で神岳社宅におりました。浸水で外へ出ると、脚の上まで水が押し寄せていました。長女、二女を松岡さんが前後ろに抱き、10か月の3女を妻が背負い、すぐそばの国鉄添田線線路上に上がりました。そこから小倉炭鉱を見ると、仰天しました。広範囲に陥没し、キャブランプ室など2、3棟は倒壊、炭車は何両も落ち込んでひっくり返っていたのです。
7◇	採炭の勤務を終え小倉炭鉱独身寮の「清和寮」で体を休めていた下原祐富(しもはら・すけとみ)さんは「宇佐町が危ない！ 全員出動！」という声で飛び起き、仲間と坑木を結わえて造った筏(いかだ)で宇佐町に向かいました。濁流はすでに家々の軒先まで達していて、逃げ遅れた人を引き揚げたり、家財を2階に上げたり。炭鉱マンたちは力の限り、水害と闘いました。
8◇	そのころ、板櫃(いたびつ)川沿いの到津で暮らしていた内田久子さんは、急に量が浮き上がって大水に気が付きました。川から水があふれていたのです。7か月の娘を背負い、窓から脱出しようとしたが、すでに濁流が渦巻き動物たちも流されていました。その時、「私に命を預けるなら」と男性が手を差し伸べてくれました。かろうじて脱出した母子は戸板に乗り移り、奇跡的に助かりました。
9◇	足立山は巨大な熊手で引っかいたように、あちらでもこちらでも崩れ落ち、小文字山や妙見山、砲台山の谷筋では大規模な土石流が発生しました。この「山津波」で観光道路は破壊され、妙見山に取り残さ

	れた女性の救出に向かった人たちはヒザ上まで土砂に埋まり、引き返しました。延命寺川などの流域では橋が流失し、家も倒壊しました。
10◇	北九州市内で183人もの方が亡くなったこの激甚災害は、北部九州に停滞していた梅雨前線に暖かい空気と冷たい空気が繰り返し流れ込んで引き起こされました。市内で3,800戸が全半壊し、83,000戸が被災しました。自動車や電車も不通になり工業都市は大打撃を受けました。
11◇	この豪雨災害には幾つか呼び名があります。広くとらえて「西日本大水害」、「北九州大水害」と言う専門家があります。熊本では「白川大水害」が一般的です。小倉、門司、八幡では「28年の28日」に被災したので「28災」(につぱちさい)という人が多いようです。高齢者の貴重な被災体験をよく聞いて、避難や防災に役立てましょう。はい、おしまいです。

12 「北九州大水害の記録」【☆資料】 4点

資料番号	内容	解説	大きさ	備考
1☆	北九州大水害概要	北九州地方は昭和28年6月28日、だれもが「経験したことがない」と語るほどの激しい雨に見舞われた。特に門司市、小倉市、八幡市の被害の様子がまとめられている。	A1 縦	提供:危機管理室 北九州市消防局発行「北九州消防五十年のあゆみ」より
2☆	昭和28年大水害の被害状況	昭和28年6月豪雨、6月4日～7日にかけての「梅雨前線および台風ジュディ」による被害状況。6月25日～29日にかけての「梅雨前線による被害状況。	A1 縦	提供:危機管理室
3☆	福岡管区气象台提供の資料 「天気図、雨量表 他	・6月21日～30日にかけての小倉・八幡・下関における日降水量の推移 ・6月28日の下関測候所(現下関地方气象台)における1時間降水量の推移	A1 縦	提供:危機管理室
4☆	体験者(森下功氏)の日記 明治35年7月生まれ	6月25日～6月30日分(解読付き)。当時、松ヶ江吉志大原にお住まいだった森下功さん(50歳)の日記。	A1 横	提供:記録する会